

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972400279		
法人名	有限会社 かたくり		
事業所名	グループホーム ほっとスティ万葉の里		
所在地	栃木県 佐野市 栃本町 3128-5 電話:0283-62-8900		
自己評価作成日	平成 24年 11月 22日	評価結果市町村受理日	平成 25年 1月 10日

※事業所の基本情報は

基本情報	
------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 24年 12月 11日	評価確定(合意)日	平成 24年 12月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「やさしく、ゆっくと、寄り添って、普通の生活が送れるよう関わります」をモットーに、ご利用者一人ひとりの生活リズムに合うよう心がけています。休みたい時や一人で居たい時には居室で休んでいただき、出掛けたい時には、唐沢山に行って景色を眺めたり、また、近所のしまむらで買い物を楽しんでいます。利用者様の希望に添えるよう、ご家族との連絡をとったり、個別になる入浴時にお話を聞き色々な事を知るよう関わっています。食材は近所の魚屋さんに毎日届けて頂いたり、地域の行事のお祭りや小学校の学習発表会にも参加したり 自治会にも入り 近所の方の訪問や一緒に行事に参加して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

万葉集にも詠われた自然豊かな唐沢山の麓にあり、命名した「ほっとスティ万葉の里」は9年を経て地域に溶け込んでいる。施設長は町内役員(班長)も務めている。事業所では近隣と災害時の緊急連絡協定を結んだり、地域での認知症講座の開催に協力するなど地域と密着した運営に努めている。これまでも事業所で開催した認知症の講座を通して家族の理解が深まり、家族が運営推進会議へ出席して積極的な提案やアドバイスなどにも繋がっている。職員は事業所の「理念」や「心得」を朝の引き継ぎ時に唱和し実践の中で共有しながら、寄り添い、気配りや思いやりで入居者の心に触れ合いながら、入居者の時空を大切に安定したよりよい暮らしの支援に努めている。事業所は職員が日々の業務を通して資格取得や自己研鑽に努め、介護の知識や技術の向上を図るよう支援し、介護の質の向上を目指している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やさしく・ゆっくり・よりそってを基本理念として利用者本位のケアを大切に、そしてミーティングを通して引続き理念を周知、共有している	入居者が感謝を込めて残っていた言葉から引用して「心皆一つになりて感謝と笑顔」の心を理念とし、玄関やリビング事務所に掲示している。職員は朝の引継ぎ時に業務を振り返りながら「日常の心得」「3Yケアこころ」と一緒に唱和し、日々新たな気持ちで入居者の暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の草取りや運動会、祭にも参加している。ホームでの行事では、小学生や地域の方も一緒に行っている	事業所は夏祭り、小学校の運動会参加など、地域と交流している。施設長は町内の班長として集会所の掃除や祭りの準備に参加すると共に認知症サポーター研修を補佐するなど地域との理解をより深めるように務めている。町内会の役員に付いた事により住民との距離が近くなり、事業所への理解に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントに参加したり、地域に出向いて認知症講演を開き地域貢献を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議で家族や地域の方に施設利用状況を説明し、意見やご要望について職員会議にて検討し改善を行っている	家族、地域代表、市職員が出席し定期的に開催され運営や活動について報告が行われている。家族、地域代表からは入居者の暮らしぶりや、事業所、地域のイベントについて活発な意見の交換や提案が行われている。議事録は家族訪問時に見やすい場所においてある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議ご参加いただいて、意見交換している	事業所は行政との連携と協働の下に入居者のサービス向上に努めている。運営推進会議には佐野市介護保険課が出席している。また必要に応じて市の担当部を訪問し相談や、利用者の暮らし振り、要望、事業所の実情について報告し、アドバイスを得ながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目標とし、職員全員が虐待は苦痛である事を理解し、その上でケアに取り組んでいる	リスクとなる場面や要因は普段から見守りや寄り添いで支援している。徘徊癖の入居者もいるが玄関の施錠はしていない。言葉での牽制(ちょっと待つて)やベッドからの転落防止などには「自分がされて嫌な事をしない」を基本に、家族・管理者・職員と話し合いで工夫するなど職員間で認識を共有して身体拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態把握に努め、その上虐待がされていないかチェックを行い、徘徊される場合は見守り同行している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在二名の方が日常生活自立支援事業を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約において、利用者様家族様のは、直接施設を見学して頂きそのうえで、十分な説明を行い、理解と納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、ご利用者ご家族の意見を伺いながら支援している。何でも話していただける関係作りを心掛け、来客されたときは、近況報告をしている	家族が月1回の清算日に訪問した時に、入居者の暮らし振りや健康状態など報告し、家族からも意見や要望を聴き、家族の近況など聴く機会を作っている。また事業所で行った認知症の講座に出席した家族は入居者の理解に繋がり積極的に運営推進会議へも出席し事業所の運営に関心を持つようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の話合いまたは、アンケート等に提案していただき、検討している。また、代表者は六ヶ月に一度、個別に話を聞く機会を設けている	管理者は定期的に個人面談を行うなどして職員が働きやすい環境づくりに配慮している。月1回の職員会議では入居者の健康状態や支援について職員から報告や提案がされ意見を反映させている。事業所の理解と協力の下で職員は資格取得や技術の向上を目指し自己研鑽に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一回自己目標を設定している。スタッフに応じた職場環境条件を整え、自己啓発をうながせる様努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修参加後、内部研修後により報告している。また、希望を聞き法人外の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所同士で集まり、意見等を交換しサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用までの間に本人、家族、ケアマネジャー等から話を伺い、本人理解に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居まで、リーダーなどが対応し、話し合いの場を設け不安な事や要望を受け止め、家族の立場に立って対応し、関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを受け止め、ケアマネジャー協力医の意見を踏まえて総合的に判断するよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊厳をもち、介護を行い接している。また家事手伝い一緒に行いながら、楽しみを共有しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や連絡相談などを通して、家族と一緒に考え、共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別対応等でその馴染みの場所の人に出会いに行く機会を作っている。友人・知人・家族等自由に来訪しています	家族や町内の友人知人が連れ立って訪ねてきたりする。入居者が自宅へ野菜を取りに行くときや、地元の祭りに同行したりしている。日常自宅への同行支援もしたり、入居者の希望により正月の帰宅を家族と相談している。また長期入居者は記憶の混濁や混乱があるが健康を優先し環境や条件に配慮して、馴染みの継続を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や生活習慣の違いもある事を理解し、スタッフが間に入りお話しが出来るよう心がけてフォローしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、気軽に遊びに来てくださいと話している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人一人の希望を聞き、できる範囲取り入れるようにしている。また困難な場合、話合って希望に近づけるようにしている	自己表現が不自由な入居者の指差しや視線・素振りなどの些細な意思表示を見逃さないように注意して寄り添っている。家族や友人・知人からも話を聴き、思いや意向を押し量りながら意思の把握に努め、本人の希望に沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、今までの暮らし方や生活環境をご利用者ご家族にお聞きし情報把握し、日誌に記載して、サービス向上に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は決まっているが、合間にレクリエーションや外出等参加している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族の希望要望を聞いてアセスメントしながら繰り返し見直している	契約時家庭訪問したり入居者・家族や居宅のケアマネの話などから基本情報を把握し介護計画に反映させている。月一回の職員会議で入居者の健康や暮らし方、支援の仕方について話し合い介護計画に反映させている。定期的な見直しのほか、介護計画を現状に即するよう柔軟に見直し、家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実践の結果や気づきを職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望によりご家族と相談し協力をしていただき、以前住んでいた自宅に里帰りを行った。また併設のデイサービスへ遊びに行ったりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで二ヶ月に一回美容師の方が来て下さる。またフラダンスや歌なども来ていただき楽しまれています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前利用していたかかりつけ医をご希望される場合は意見を尊重している。また今年から協力医に相談して月に一回往診するようになった。	大半の入居者は往診も可能である協力医をかかりつけ医に変更している。入居前からのかかりつけ医への診察は原則家族対応であるが、職員の同行がほとんどであり、健康状態によってかかりつけ医の往診もある。また歯科医の訪問診療も入居者・家族の安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師がおり相談している。また、協力医の看護師やかかりつけ医の看護師にも、受診や往診時分からないことは聞いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ訪問も行い、家族に入院中の様子を聞きノートに記録を行っている。入院後は担当看護師に説明を受け、施設に戻られても支援が速やかに行われるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される際ご家族に説明をし希望された場合は同意をいただき、職員等方針を共有している	入居時の経緯に沿って入居者・家族と看取りに関する同意書を交わしている。看取りに関する指針を基に本人・家族からリビングウィルを確認し医師・看護師の指示を受けてカンファレンスを行い、看取り介護計画を作成し実施している。協力医の看護師と看取りの介護における約定書を交わり、多職種間の連携を図り疼痛緩和など看取り介護の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一般的なマニュアルがある。また、定期的に職員会議等で講習を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に何度か通報訓練、消火訓練、避難訓練を行っている。運営推進会議で地域の方に協力をしていただけるよう働きかけ参加していただいています	近隣と緊急時通報システムの設置協力の同意を得て、業者に工事を依頼している。消防署立会いで5月に避難訓練を実施、手押し車や、車椅子などが避難通路の障害となったり、避難備品入りのリュックサックが意外に重いことなども分った。課題を整理しながら1月に再度避難訓練を計画している。	多発している地震などにも備え、居室や避難通路などの落下障害物に備え点検し常に安全な経路の確保に期待します。また入居者の身体機能の低下が顕著なことから、避難訓練には家族の参加を促し、緊急時には家族と連携した入居者の支援に備える意識付けに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人やご家族の意思を尊重し呼び方を考えている。「○○さん」と呼ぶよう心掛けている	名前の呼び方について、家族に相談し、「・・・さん」付けで呼んでいる。難聴の入居者にも姿勢や目線の高さに注意し、本人に聞こえるようにゆっくり話すなど気配りしている。入居者同士も互いに尊重しあい、プライバシーが守れるように気配りし、寄り添い支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から、ご本人がどのように考えているのか引き出させるよう、またその思いに添えるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を確認しながら支援ご本人なりのペースに合わせた対応が出来るように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の趣味趣向を把握し、ご本人に確認しながら支援している。また、定期的に美容院の方に来て頂きカットしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が1人一人の好みを把握している。また、其の方が食べやすいように工夫している。メニューも職員間で考え利用者様に喜んでいただけるものを考えている	馴染みの魚屋さんが主な食材を配達してくれる。入居者はリビングから職員の料理を見たり、匂いや音を感じながら、口腔運動し食事を楽しみにしている。職員は一緒にテーブルを囲み、入居者の夫々のペースで楽しみな食事を介助している。食後は、さげ膳や、茶碗拭き・テーブル拭きなど個々の能力に合わせて手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	参考資料を元にメニューを作成している。食事以外にも水分補給を行い記録に残し、職員間の共有を図っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。困難な方には状況に合わせて職員が対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや排泄量を把握し日夜リハビリパンツにて対応している。利用者の状態によってはオムツ着用している	排泄チェック表からパターンを把握しているが、寄り添いと見守りの中でも素振りや様子を見逃さないように声かけをしている。入居者は失禁など失敗の心配から介護パンツなどで対応しているが、介護度の高い入居者も足腰の衰え防止のために、歩行支援を継続しておりトイレでの自立排泄が可能となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い物や水分摂取にて予防対応している。また運動や腹部マッサージなどを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日おきに実施している。また体調不良や入りたくないとの訴えがあれば順番を変更したり翌日にしたりと臨機応変に対応、支援できるよう努めています	二班に分かれ一日おきに入浴している。入浴に気が働まない入居者には、気分転換して翌日に勤めるなど、体調や希望にあわせた支援をしている。季節によって菖蒲湯・柚子湯など入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は足浴を行い、天気の際は寝具を干しています。夜間はエアコン、湯たんぽ、加湿器を使用し、安眠できるよう心掛けています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化には看護師に相談し、かかりつけ医に支持を仰いでいる。また一人ひとりの薬の内容を理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事お手伝いを無理のない程度にさせていただき、計算問題、塗り絵、歌など得意なことをして過ごしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月イベントを行い外出できるよう努めている。また、その日の希望により併設のデイサービス協力のもと外出の機会を設けている	開設時からの入居者は高齢化が進み外出の仕方・行く先や希望に変化が見られる。歩行外出が無い時は南向きの玄関脇や中庭で「おしゃべり」を楽しみながら外気浴や日光浴を楽しんでいる。また唐沢山へのドライブや秋山河川敷の花見に誘ったりしている。希望者には、併設しているデイサービスの送迎車に同乗するなど気晴らしと外出の楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はご本人ご家族承諾のもと施設でお預かりをしています。また、買い物などの時は一緒に出かけて好きな物を選んでいただくよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は訴えがあれば職員がダイヤルを押し、いつでも連絡が取れるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きいソファや冬はこたつを作り、リラックスできる空間を作り、自由に過ごしていただいています。壁や畳には、季節に合わせ飾り付けを行っています	南向きの玄関からはリビングを通して厨房まで見渡せ、高い天井と中央の大きなソファはゆったりとした雰囲気、入居者のくつろぎの場になっている。茶の間風の和室のコタツは懐かしさを感じる。キッチンからは料理の音や匂いが届き、家庭での暮らしを思わせる。リビングや、トイレ、廊下、風呂などは掃除が行き届き不快臭や、刺激音も無く清潔が保持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやソファや畳にはこたつがあり、自由に過ごしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前ご自宅で使用していた物を同じような配置で行い、自宅と同じ様な配置に心がけている。馴染みの物を持って頂いています	自宅での暮らし方や好みに合わせて和風や洋風にしたり、夫々住み心地良く工夫している。使い慣れた筆筒やソファを持ち込んだり家族の写真を飾るなど、思い出を大切に部屋にしている。職員の提案で家族と相談して加湿器を置くなど健康管理にも配慮した支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関先にベンチ施設に入った所に対面ソファを設置しています。また、事務所や併設のデイサービスにも自由に行きまわしている		